まほろん通信

Fukushima Cultural Property Center Shirakawa since2001

2018 夏 VOL.68 号

◇特集◇
企画展「縄文土器の逸品」へのいざない

■シリーズまほろん回顧録3■
愛称“まほろん”～その由来～ 之巻

■シリーズ遺跡発掘最新情報3■
伊達郡桑折町 新宿遺跡

■コラム■
考古学の実測図とは

特集

企画展

「縄文土器の逸品」へのいざない

まほろんに収蔵された縄文土器の中から、造形美に優れた逸品を一同に展示。

文：門脇 秀典（専門学芸員）

まほろんは、縄文土器の宝庫だと、あらためて思いました。奥行が80メートルもある収蔵庫には、福島県内の遺跡からの出土品などが定型の箱に収められているのですが、その数は約5万2千箱。その一角に、法正尻遺跡出土の縄文土器が、特大の箱に収められて整然と並びます。収蔵庫にはそんな縄文土器だらけの場所が何か所もあり、棚に収まりきらない超大型土器だけを集めたところまであります。

まほろんの学芸員は、ほとんどが縄文時代遺跡の発掘を経験しています。なかには竪穴住居跡や貯蔵穴だらけの遺跡で「調査を終えた地面が蜂の巣のようだった」「掘った土の量より縄文土器の量が多い」などという話もよく聞きます。7月7日に開幕する企画展「縄文土器の逸品」では、学芸員が発掘時のエピソードなどを交え、思い入れのある縄文土器を紹介します。

縄文土器を展示する時、照明の光をどのように当てるかで、まったく表情が変わってきます。やさしくもあり、荒々しくもあり、神々しくもあります。これは個人個人の感じ方なので、遺跡の報告書を読んでも一言も書いてありません。今回の展示では、見学される方が縄文土器一点一点の表情を感じ、ベストな角度で写真撮影されることをおすすめします。

大地から粘土を掘り起し、粘土を積み上げ、思いを込めて造形するようすは、「産土（うぶすな）」そのものです。文様の意味をすべて読み解くことはできませんが、縄を転がし、粘土を貼り付けて描いた縄文人のこころに触れることは難しくないような気がします。

縄文人のこころに触れ、最も近づこうとした日本人は、岡本太郎ではないでしょうか。だれしも火焔型土器を見たとき、「なんだ、これは！」と叫ぶはずです。岡本はこのありあまる感情を叩きつけたような激しい造形に対し、「私たちの血のなかに圧倒的な本質がひそんでいる」と説いています。今回の展示では、縄文土器のもつ力強さ・美しさを感じ、縄文人のこころに触れていただければと思っています。

「まほろんオリジナルランチバッグ」のご案内

ご案内させていただくのは、厚手のキャンバス生地に縄文土器のマークをあしらったまほろんオリジナルランチバックです。

マークのモチーフとしたのは、法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）から出土した国指定重要文化財の縄文土器で、当館のスタッフがデザインしました。

「まほろんショップ」では、ご案内したグッズをはじめとしたオリジナルグッズや、まほろんならではの文化財関連グッズなどのアイテムを揃えております。最新の情報はホームページでご覧いただけます。

ミュージアムショップご利用案内のページ
http://www.mahoron.fcp.or.jp/shop/index.html

表紙の1枚

5月3日から5日まで開催された「ゴールデンウィークまほろんまつり」では、バラエティーに富んだ体験メニューを準備し、3日間で1800人を超える方々にご来館いただきました。最終日の5月5日には、企画展「JOMONワンダーランド」にちなみ、縄文時代の丸木舟づくり体験の開始を告げる「ちょうな初め」が開かれ、菊池徹夫館長が丸木に石斧の刃入れを行いました。

シリーズ

まほろん回顧録３

愛称“まほろん”～その由来～

之巻

“まほろん、まほろん・・”
と言うけれど・・

文：吉田 功（学芸課主幹）

開館から17年がたとうとしている今でも、「まほろん」とはどういう意味ですか？と質問されることがあります。

「まほろん」は福島県文化財センター白河館の愛称（ニックネーム）です。優れた良いところを意味する古語「まほろば」と「男のロマン」や「古代史のロマン」などと使われるように、憧れを満たす意味の「ロマン」を重ね合わせた言葉で、「歴史への憧れを満たす、優れた良いところ」を意味しています。

平成13年7月15日の開館からさかのぼること２年前、当時は福島県文化財センター白河館（仮称）と、とても長い名前で呼ばれていましたが、将来、県民に親しまれ、県民に利用しやすい施設となることを願って愛称の一般公募が行われました。北は北海道から南は沖縄県、さらに海外からも４点の応募があったそうです。応募総数3,841点のなかから（１）覚えやすく、県民に親しまれる名称、（２）施設の内容が理解しやすい名称という選考基準で「まほろん」に決定しました。命名者はお隣栃木県の方です。また、この頃から「見て・触れて・考え・学ぶ　体験型フィールドミュージアム」というキャッチフレーズも使われるようになりました。

当時県内では、公開施設等に愛称をつけるのがブームで、まほろん開館のちょうど一年前、平成12年7月15日に開館したふくしま海洋科学館（いわき市）は、ご存じ「アクアマリンふくしま」の愛称で県内外の多くの方々に愛され、親しまれています。当時のキャッチフレーズは、「見て・触れて・学ぶ　新海洋ミュージアム」。ムムッ、まほろんと似てますね。

それでは皆さん、平成10年に開館した福島県産業交流館（郡山市）はご存じですか？そうです、「ビッグパレットふくしま」なんですね。ほかにも、まほろんと同じ年に開館したふくしま森の科学体験センター（須賀川市）は「 ムシテックワールド」の愛称で親しまれています。

最近では、平成28年に開館した福島県環境創造センター交流棟（三春町）も一般公募で愛称「コミュタン福島」に決まりました。

おかげさまで、今ではご利用の皆さんから「まほろん」の愛称で呼ばれることがほとんどです。

プレイベント「みんなで昔の家を作ろう！」
（平成12年10月）

コラム

『考古学の実測図とは』

文：山元 出（学芸課副主幹）

遺跡から見つかった土器や石器は、三角定規やディバイダなどで採寸して図とします。これを実測図と呼びます。実測図では写真では表現しきれない、作り方、成形方法、模様のつけ方、内面の状況や断面などを示すことができます。

実測図にも基本的なルールがあります。三次元のものを二次元で表現する以上、描写する内容も限界がありますので、実測者は情報の取捨選択を行ったうえで情報を記号化して表現しています。これは、他の遺跡から出土した資料との比較検討を行いやすくするためです。

しかし、ここ数年の三次元スキャナーやデジタル写真の三次元化処理などの技術進展により三次元計測が身近なものとなり、これらの文化財への応用も始まってきています。将来、三次元モデルが一般に普及するようになれば、実測図の意味も変わるかもしれません。

シリーズ　遺跡発掘最新情報３

伊達郡桑折町 新宿遺跡

中世の街道と堀にまつわる発掘エピソード。

文：廣川 紀子（主任学芸員）

ご紹介する新宿遺跡は、復興支援道路として緊急整備される東北中央自動車道 相馬福島道路の予定地から発見されたものです。遺跡は、標高 60 mほどの小高い丘陵上にあり、東に接して旧伊達町方面から桑折町中心街へ抜ける県道 353 号線が南北方向に延びています。この県道 353 号線は近世の奥州街道といわれ、瀬上宿のあった福島市瀬上地区方面から旧伊達町内に入り、桑折宿のあった桑折町中心街を通って伊達郡国見町方面へと続いています。

今回の発掘調査の成果として特に興味深いことは、近世の奥州街道に並行するそれ以前の主要道路跡を確認したことです。道路の幅は８m前後で、西端には約 1.5 m幅の側溝が認められました。また、道跡に直行して、ややくびれた丘陵の西側を分断するように堀が設置されていました。堀跡の堆積土からは短期間のうちに埋め戻され､枝道として再利用されたことがわかりました。調査時の堀跡の大きさは幅約 3.5 m、深さ約 1.2 mと小ぶりですが、掘り上げられた土砂が土塁状に盛られていたとすれば相応の規模になるものとみられます。枝道は両端に側溝が付く幅約３m弱のもので、その周辺には多数の建物の柱穴があり、街道筋のにぎわいが感じられます。枝道の整備のために埋め戻された土の中からは古代末ごろのかわらけが見つかっています。

柱穴から見つかった中世陶器

おそらく確認された道跡は、「奥の大道」と呼ばれる中世の主要道路です。近世の奥州街道が整備されるまで、古代以前から当地域の主要道路として北に南に旅人たちが行き来していたことでしょう。

さて、当地域に隣接する国見町には、古代末に奥州藤原氏が鎌倉源氏と対峙した「国指定史跡阿津賀志山防塁」が所在します。堀が設置された時期とも重なりますが、共通する時代背景まで考えてしまうことは想像を膨らませすぎでしょうか？

新宿遺跡から瀬上宿方面を望む

まほろん掲示板

7/1（日）第１回文化財研修
7/7（土）～9/2（日）
　企画展「縄文土器の逸品」
7/7（土）カラムシコースターづくり①
7/11（土）・12（日）第２回文化財研修
7/14（土）カラムシコースターづくり②
7/22（日）まほろん夏まつり
7/28（土）第２回文化財講演会
　「縄文後・晩期の社会」
　第２回館長講演会
　「未来への考古学（2）」
8/8（水）～10（金）教職員等発掘調査体験研修
8/11（土）カラムシコースターづくり③
9/1（土）文化財講座
9/29（土）～11/25（日）
　企画展「白河市天王山遺跡の時代」
9/29（土）第３回館長講演会

★お気軽にお問い合わせください！

編集後記

今号は、４月から新たにまほろんに加わった職員を中心に執筆しました。長年勤務する職員とは違った新鮮な目で、まほろんの資料や展示などを紹介したり、遺跡発掘現場との連携に関する内容を執筆しました。また、ひと味違った「まほろん通信」になったようです。

まほろん通信 vol. 68
平成 30 年６月 29 日発行

開館時間　9：30 ～ 17：00（入館は 16:30 まで）
休 館 日　月曜日（月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW 及び夏休み期間中は開館します）/ 国民の祝日の翌日（土・日曜日に当たる場合は開館 / 年末年始（12 月 28 日～１月４日）
入 館 料　無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）

お問い合わせ
まほろん
福島県文化財センター●白河館
〒 961-0835　福島県白河市白坂一里段 86
☎　0248-21-0700
fax　0248-21-1075
ホームページ　まほろん　検索